



特定非営利活動法人 なんとなくのひろば 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail [info@nantonakuno.net](mailto:info@nantonakuno.net)

## 進学・進級を祝う会！

春休みに入った3月28日、祝う会・餃子パーティはなんにわ史上上位にランクインする人数が集まり、賑やかなお祝い会になりました。初めての出会いもあり、保護者同志も話に花がさいていました。こどもたちは自分で包んだ餃子とおかわりで満足な笑顔でした。  
(西尾)



餃子作りに子どもたちも挑戦しました。

20名以上の参加者があり、スタッフとしても、とても嬉しい会になりました。呼びかけたのは居場所利用者と茶話会メンバーの方たちでしたが、呼びかけたとき「楽しみにしています」と皆さんが応えて下さったので、居場所としての「なんとなくのひろば」が、皆さんにとって悪いものではないことを実感しました。そして、当日の餃子作りも皆さんの協力がすばらしく、子どもたちの楽しそうな笑顔もたくさん見られました。初めて顔を合わせるお母さんたちもいたのですが、すっかり打ち解けて、子育てについて意見交換をしている姿もありました。  
(白井)



大勢の方に参加していただき、自分自身も初めての参加だったので緊張しましたが、皆で作ったギョウザの美味しさに感激！！皆で食べるとさらに美味しく感じました。  
(丸本)



子どもたちは食べ始め、大人たちが大奮闘。

デザートはケーキ。どれにしようかなあ。



### 目次

進学・進級を祝う会！	1
環境研究班・放射能測定 (1)	2
活動日誌	3
勉強会・教育相談を通じて 気がついたこと、あれこれ	3
こんな本はいかがが・37	4



## 子育て・親育ちの茶話会

場所：子どもの居場所（日光市平ヶ崎）

日時：毎月第2月曜日（午前10時～12時）

次回の予定はお問い合わせください。参加費：300円（お茶代）

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合いましょう。「一人で悩まず、みんなで！」を合い言葉に。

(Tel: 090-3227-7079)

## 3年目の放射能測定(1)

### なんとなくのひろば・環境研究班

2011年の原発事故によって、莫大な量の放射能が福島第1原発から放出されました。それ以来、どれだけの放射能がこの日光を汚染し、今後の生活に影響を与えるのかという問題に関心を持ち続けてきました。2014年に放射能測定器を導入し土壌などの測定を始めた経緯を、活動を始めた3年目を機会にまとめておくことにします。今回はその第1回目です。

2012年ごろから、安価な空間線量計が販売され、身近な環境での放射線量測定が可能になりました。空間線量は周辺の地上に落ちた放射能のおおまかな指標にはなりません。しかし、放射能汚染についてより詳しく知るためには、汚染の大部分を占める「放射性セシウム」について、より定量的に調べることが大切ではないかと考えました。

この年の春から、日光市産業環境部農林課により市民向けの食品放射能測定が始まりました。さっそくワラビを採取し測定を依頼したところ、キログラムあたり170ベクレルの放射性セシウムが検出されました。春に芽吹く山菜の多くにはキログラムあたり100ベクレルを超える放射能が含まれていることがわかり、ますます土壌測定の必要性を感じました。放射線についての基本知識は持っていたものの、原子核崩壊から放出される放射線の測定については、知らないことばかり。原発事故以降、インターネットに掲載された情報を参考にしながら試行錯誤が続きました。

そんな中、日光市役所産業環境部環境課で土壌の放射能測定器の運用を考えているという情報が入りました。公開された測定器を活用できないか。「なんとなくのひろば」の「環境の保全を図る活動」として環境研究班を立ち上げ、放射能について勉強しながら測定を進めることにしました。

2013年の後半には市役所の担当の方と以下のテーマについて数回の打ち合わせを持ちました。

- (1) 放射能の動きを監視するための、継続的な空間線量の測定および土壌の放射能測定への市民参加
- (2) 測定器の管理、測定精度の向上などを目的とした放射能測定器をもつ研究機関との連携
- (3) 放射能・放射線に関する市民講座、教育機関との関係、放射能、放射線測定の教材化

話し合いの結果、「毎週金曜日6件まで測定できる、食品でないものなら何でも測定する」という合意ができました(2013/11/11)。12月から準備を整え、2014年3月から8月にかけて20回(約60点)の測定を環境課に依頼し結果データを蓄積しました。測定を進める過程で、行政による土壌測定という制約のため測定を拒否される試料もあるなど、立場の違いが明確になってきました。

市役所への依頼をいったん8月で打ち切り、半年間の経験をふまえて、測定精度、結果の記録、そして測定対象の制限などについて検討しました。その結果、環境研究班が独立に測定器を持つことを決定。機種選定のため、三上と手塚が開発先(FUIJapan/東京都港区)を訪問。測定の実際を見学し、比較的安価な ChappyDigital211という機種を導

入することに決めました。放射能測定器は、高精度で放射線を分離できる「ゲルマニウム検出器」は2,000万円、エネルギーの分解能は劣るけれど、プラスチック中を通過する放射線が出す光を分析して濃度を決定する「シンチレータ検出器」は200万円が相場です。測定機本体15万円、外部放射線遮へいのための鉛ブロック10万円の装備で正確な測定が可能なのかとの不安を抱きつつの導入でした。以下、2014年8月から9月にかけての導入メモです。

8月21日(木):注文・振込み

9月11日(木):鉛ブロック到着

10×20×5cm(重さ:11.3kg×10個)

鉛害防止のため、梱包用ポリプロピレンテープ(幅5cm)を各ブロックの周囲に貼る

9月17日(水):秋葉原で測定用ホストPC、9千円で購入(CPU:Celeron+Memory:1GB、Windows7SP1)

9月19日(金):測定器(CsI結晶、MCA)到着

9月20日(土):試験測定開始

インストールは簡単(MCAドライバ(USB→シリアルポート変換)、測定モニタ(BecqrelMonitorPlus)を起動、Excel2007以上が必要。

9月21日(日)より:校正測定

夜中に6時間かけてバックグラウンドを測る。塩化カリウム(KCl):カリウムにふつうに含まれる放射性物質・カリウム40を使って校正する。薬局経由で購入(500円/500g) 杉雌花採取・乾燥:キログラムあたり約250ベクレル。食品測定時の校正に適當。適當に乾燥させればどうぶん腐ることはない…。

などなど、並行して他の研究機関と測定データを比較することにより、測定精度について検討を重ねました。

10月になり、いよいよ土壌測定を始めることにしました。採取した土壌を乾燥させ、380mLの容器に詰め込みます。乾燥土壌は微粉末となり飛散します。屋内でのサンプル作成作業は難しく、ガレージに作業場を作りました。総重量120kgになる測定システムは、この時期まだ家の玄関にありました。陽があたるので、気温の変化が大きい昼間を避け、夜間に長時間測定を試みるなど、テスト測定が続きました。はじめ、設置場所として外部からアクセスしやすいガレージを考えましたが、測定器周囲の放射線量が高くなるのを避け、室内に置くことにしました。

写真は玄関から室内に移動した測定システムです。右の鉛ブロック内に検出器本体があります。左の小さな箱には検出器からの電気信号を解析し、USB経由でパソコンに送信する回路(MCA)が入っています。

ここまでが導入経緯です。冬に向かって、周辺温度が測定に影響するため、恒温槽に入れて校正測定などなど…

次回に続きます。

(環境研究班 三上・手塚)





# ☆ 活動日誌

- 2月10日(金) 通信「なんとなくのひろば・第46号」発行  
 2月13日(月) 茶話会(第72回)  
 2月21日(火) 発達相談訪問  
 (日光市教育委員会 臨床心理士・帷子先生)  
 2月24日(金) つくって食べよう(いちご)  
 2月26日(日) ベリー会:学習会  
 3月1日(水) 理事会(第76回)  
 3月13日(月) 茶話会(第73回)  
 3月15日(水) 情報交換会(通所する子の在籍校との話し合い)  
 3月18日(土) 勉強会「教育相談を通して気がついたこと、  
 あれこれ…」講師:石山博幸さん  
 3月19日(日) ベリー会:月例会  
 3月28日(火) 「卒業・進級を祝う会」(子どもの居場所)  
 3月30日(木) 子どもの居場所・運営業務委託入札手続(市役所)  
 3月31日(金) 子どもの居場所・2016年度終了  
 4月4日(金) 子どもの居場所・2017年度開始  
 4月10日(月) 茶話会(第74回)

さくらそう関連の勉強会など

平成28年度相談支援専門員連絡会(毎月第4水曜日 午後2時より)  
 に参加しています。

2月22日、

3月22日(相談支援に係る業務実態調査の報告と交流会・ピザパーティー)

NPO法人 なんとなくのひろば

## 第13回 通常総会

2017年5月6日(土)

午後2時より

会場:市民活動支援センター  
 (0288-22-2271)

事業報告・決算報告、事業計画・予算案  
 会員が交流し、意見交換できる場です。  
 お誘い合わせの上、気軽にご参加ください。



**2017年度も今までと同じ日程で開所します!**

**毎週 月～金 12時30分～16時30分**

学校長期休業中は 火・金 実施、祝日は休みます。

費用負担はありません。見学自由です。

## 教育相談を通して気がついたこと、 あれこれ… (3月18日・土曜日)

千葉県教育庁葛南教育事務所・特別支援アドバイザーの石山博幸さんを講師に、勉強会を日光市勤労青少年ホームで開催しました。

アドバイザーの活動対象は千葉県葛南地区(船橋市周辺の5市)幼稚園から高等学校までの280校。学校からの要請に応じて訪問し、助言や援助を行う「特別支援アドバイザー」の仕組みの説明に始まり、実際の教育相談の内容について具体例を交えた話がありました。相談内



容は発達障がい、不登校(支援学級)、生徒指導・進路指導など多岐にわたり、具体的には「診断が出ている子を「特別扱い」のようにしてよいのか。特別支援の子と周りの子との対応の違いによる偏見をどう減らしていくか」などの質問に対応することです。また現場教員に向け、魅力的で達成感のある授業づくりのため、授業改善の知見を教師間で共有する手立て、教材教具の工夫など多方面の指導を行っているそうです。

後半、発達障がいを持つ子に対応したユニバーサルデザイン、教室の配置、机、椅子、黒板などについての紹介がありました。具体的な工夫や教具についての話をもっと伺いたい、次回は保護者さん対象にお話をさせていただいたらとの希望もあったそうです。

葛南教育事務所では生徒指導班会議(生徒指導専任指導主事・不登校訪問相談担当者・スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー等の情報交換会)が定期的に持たれていること、また事務所主催の中学校-高等学校の引継の会議が行われていることも知りました。人口や密集度が異なる日光地区ですが、これから参考にしていきたい活動が紹介されたのではと思います。(T)



## こんな本はいかが？

### その37: 児童文学作家 いたうみくさんの本

今回は、児童文学作家 いたうみくさんの本を紹介します。

#### ①「かあちゃん取扱説明書」 童心社 2013年 (小学校中学年向き)

もう題名を見ただけで笑っちゃいます。「かあちゃんは、ほめるときげんがよくなるんだ。とにかくほめること。パソコンもビデオも、扱い方をまちがえると動かないだろ。——そうか、扱い方だ！」とうちゃんの言葉からヒントを得て、トリセツを書き始めた哲哉。

この本を読んでいて、これはいい方法だと感心してしまいました。子どもだって大人だって、取り扱い方を考えながら、日々生活しているわけです。子育てでは、いいところをほめながら、いいところを伸ばしていくのはよく知られているところですが、これが“かあちゃん”や“とうちゃん”にも当てはまるのです。ただ、このかあちゃんのすごいところは、哲哉の知らないうちに「警告！危険物につき取扱注意」と、トリセツの最後に付け加えていて、「かあちゃん、おそろべし！」なのです。

#### ②「おねえちゃんって、ほーんとつらい！」 岩崎書店 2015年 (小学校低学年向き)

妹のナツちゃんは、おねえちゃんのココちゃんよりも大きい。でもナツちゃんは3歳だから、ギャンギャンうるさいし、いつもドタバタしている。まるで「かいじゅう」だ。ココちゃんはおねえちゃんだから、いろいろめんどろを見なくちゃいけないし、たいへんだ。おねえちゃんの大変さが伝わってきますねえ。

#### ③「キナコ」 PHP研究所 2015年 (小学校低学年向き)

キナコは、ゆまちゃんがかわいがっているねこの名前。「キナコはねこだけど、あたしの妹です。」でも、ママのおなかから赤ちゃんができて、キナコをおばあちゃんにしばらくあずかってもらおうという話になり・・・キナコと離れるなんて絶対いや！・・・ゆまちゃんがとった行動は・・・

そのほか、小学校高学年向けに、「糸子の体重計」(童心社 2012)や「チキン」(文研じゅべにーる 2016)など、多数の児童書が出版されています。いたうみくさんの本は、どれも主人公の気持ちの揺れ動きが丁寧に描かれていて、そこからどう気持ちを立て直していくか、児童書とは言いつつも、なかなかいいものをいただけます。(白井)

## 私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

## 私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業
- ⑧ 第二種社会福祉事業の相談支援事業経営

## 会員について

正会員：56  
賛助会員：19  
団体会員：4  
入会金はありません。

年会費(一口)  
正会員 3,000円  
賛助会員  
個人 5,000円  
団体 10,000円

私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。会員を継続し、応援よろしくお願いします。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。皆様の積極的な参加をお願いいたします。



## なんとなくのへや

朝日新聞「吾輩は猫である」の連載が3月で終わった。これまで何度か読み返しているが新聞小説として読んだのは初めて。話の内容と読んだ時期が混じり合う、ちょっと面白い体験だった■1年前のこの欄に、はじめて読んだのは小学校6年生の頃と書いた。その後、20代、30代で読んだ気もするがそのときの記憶はあまりない。猫があちこち歩き回り、覗いた風呂屋の様子や、学生の悪戯などは覚えている。ひとつひとつのエピソードが面白い。それに比べて後半の寒月、迷亭、独仙、主人先生たちの繰り広げる会話はほとんど印象に残っていないことに気付いた■それもそのはず、終わり近い3月頃の連載は文明論、自由論、結婚論、滅亡論など、日本の未来を見据えた漱石の暗いシミュレーション全開である。狭い世界で生活していた50数年前の小学生が読んでわかるものとは思えない。なんだかわからないが別の世界を覗くような気分で、どこか興味を持ちながら読み通したのだろうか■表面の記憶には残っていないけれど、今の自分は漱石の文明観にどこか影響されているような気もする。これが読書の恐ろしいところかもしれないなどと考えながら連載を読み終えた。(T)